

池中だより

【教育目標】

- すすんで学び実践する人
- 感謝する心を持ち責任を果たす人
- 心身ともに健康な人

8月号

平成25年8月27日

豊島区立池袋中学校

心に残る夏休みでしたか？

校長 堀 利光

今年は「豪雨と猛暑」という言葉で長く記憶される夏だったのではないのでしょうか。「豪雨」は、全国各地で川の氾濫や土砂崩れが起こり災害を引き起こしました。また、「猛暑」は、8月12日に高知県四万十市で気温41℃の観測史上の記録を更新しました。これに代表されるように猛暑日や熱帯夜が続き、熱中症対策が注目されました。このように今年の夏は気象面で特筆されるものでしたが、生徒一人ひとりにとっては、どのような夏だったのでしょうか。

部活動

この夏季休業中は各部活動で日ごろの練習の成果を大いに発揮しました。女子バレーボール部は、都大会へ出場しました。また、野球部は、都大会の三回戦まで駒を進めるというように大健闘しました。吹奏楽部は、吹奏楽コンクールの中でも東日本大会をめざす上部グループの大会で銀賞を獲得しました。水泳や器械体操の大会でも輝かしい成績を収めた生徒がいます。この他の部活動でも、試合や大会で賞という形には結びつかなかったものの自己ベストを更新したり、今まで出来なかったプレイが出来るようになるなど自己実現が図れた生徒がたくさんいました。

苦手の克服

学校だより七月号で「1学期を振り返ったうえで、どうしても出来なかったことは見過ごさずに次の機会には出来るようにしておくこと」と書きました。苦手だからやらないのか、やらないから尚更苦手になるのか、このような悪循環を断ち切る時間的余裕があった夏季休業日に、きちんと取り組み克服することができたでしょうか。

自分を成長させる

学校を離れて家庭の一員として過ごすことが多かった夏季休業日。家族旅行や田舎での生活。映画や展覧会・美術展に行った。積極的に家の仕事を手伝った。地域の一員として地域の行事や祭礼等に参加した。ボランティア活動等に取り組んだ。読書や趣味の世界に耽った。自分が欠かさずやっていることを継続して行った。どれをとってもこれらの体験がいずれは自分の幹を作る大切な養分となるはずです。

自分が過ごした夏季休業日を振り返えることで、それが自信となり大きく飛躍するきっかけとなることがあります。過ぎてしまった夏休みなんか忘れてしまった、関係ないで済ましてしまうのはもったいない時間の過ごし方です。

何が「有意義」な夏休みだったのか、どんなことが「充実」した夏休みだったのかを思い出し、意識することがこれからにつながっていきます。

二十四節気の一つ「処暑」（暑さが峠を越えて後退し始めるころ）も過ぎました。長い休みで緩んだ体調を整えるとともに、気持ちも学校モードに切り替えて二学期をスタートさせてください。

